

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部		
	課名	商工観光課		
	係名	観光係		
	記入者		電話(内線)	218

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称			結城蔵美術館運営事業				(3) 事業の 優先度		A	
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体		市				
① 事業の区分	主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)				
② 施策コード	34102		(総合計画掲載ページ)					会計区分	一般会計				
基本目標(政策)	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)							財源区分	市単独				
基本施策	3-4地域資源を活用してにぎわいと交流を促進する観光の振興(観光)							予算科目	款 7 項 1 目 5				
施策	①地域資源を活用した観光の振興							予算書上の	結城蔵美術館運営経費				
施策内容	2交流拠点の形成							事業名称	(予算書 129 ページに掲載)				
(5) 事業期間		開始	平成	26	年	4	月から	(8) 事務分類		自治事務			
	終了			年			月まで (力年)	根拠法令					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）	(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）
・観光客	
(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）	
・結城蔵美術館の企画運営	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など （※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）
	・市民から寄贈された蔵2棟を、結城蔵美術館として改修・復元したこと。
(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境、市民ニーズ等）や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
市内の他の施設や店舗との役割の違いを明確化し、新たな芸術文化や観光資源を広くPRし、多くの観光客を呼び込むきっかけとなるような、企画・運営を行う。また、来館者の市民の意見等を検討し、実現させていく。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
実施計画							
● 予算内訳		実績額 (千円)		当初予算額 (千円)		計画額・見込額 (千円)	
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費	賃金	1,568	2,693				
	需用費	538	576				
	役務費	129	144				
	委託料	243	245				
	使用料及び賃借料	252	252				
	工事請負費	1,561	1,205				
	公有財産購入費	3,962	0				
	備品購入費	578	122				
	合計	8,831	5,237				
	国庫支出金 (千円)						
財源	県支出金 (千円)						
	地方債 (千円)						
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	8,831	5,237				
	合計 (千円)	8,831	5,237				
補助・起債制度名							

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	芸術作品の展示	目標値	回		12	12	12	12	
		実績(見込)値		12					
	歴史的・文化的資料の公開	目標値	回		2	2	2	2	
		実績(見込)値		2					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	来館者数	目標値	人		28,000	28,000	28,000	28,000	
		実績(見込)値		24,878					
		達成率		88.9 %	0.0 %				
	ワークショップの開催	目標値	回		2	2	2	2	
		実績(見込)値		0					
		達成率		0.0 %	0.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
・蔵美術館PR用のポストカードを作成し、県内・近隣施設に設置、配布を行い、周知を図った。 ・本蔵の展示について、1か月毎に入れ替える展示計画を作成した。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	見世蔵を活用し、歴史・芸術文化の情報発信基地とした新たな観光スポットとして運営することにより、観光客の増客及び市の活性化を図ることができる。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	事業を進めていく上で、企画の調整については市が主体として行うことが妥当である。					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	利用状況や市民の要望も取り入れ、運営については検討していく。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	入場者や利用状況を考慮し、コスト削減を図っていききたい。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	当市の歴史的資料及び、本年度は本市に関係のある作家の作品の展示・販売を行う計画であり、妥当であると考えられる。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	本市の歴史及び新たな芸術作品の展示により情報の発信に努めている。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	入館者については、近くの袖関係の観光地点と概ね匹敵することから、順調であると考えられる。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
本蔵の芸術作品の展示・販売については当面、本市に関わりの深い作家の作品となっている。また、袖蔵についても本市の歴史的・文化的資料の公開を行っているが、今後の展示については、運営委員会を開催し検討していく。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
本市の観光拠点として、幅広い世代の市民・観光客が訪れ、本市の歴史・文化を理解していただき、若い人が結城の芸術文化をつくり上げていけるような環境と新たな観光資源の発掘につながる運営を行い、市民からも親しまれる蔵として活用していきたい。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			本蔵では、月替わりで作家による作品の展示・販売を行っており、袖蔵では歴史・文化的資料の展示を継続し、文化・観光拠点としていく。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				